



伊藤 廉 (1898-1983年)

《雨上がる夏の高原》

1970年頃 油彩・キャンパス

雨上がりの空に顔をだした太陽が、木々や水面を照らしています。簡略化された形や、ヘラを使って塗り込められた深い色調により、素朴で温かみを感じさせる作品です。名古屋生まれの伊藤は、初期には人物画を、1932年以降は静物や風景を描き、本作に見られるような独自の画風を築きました。また、東京芸術大学や愛知県立芸術大学で多くの後進を育てるなど、美術教育の分野でも大きな業績を残しています。

美術館 ☎23-1636



弓はずと牙製勾玉
(市指定有形文化財)

天王町の本刈谷神社境内にある本刈谷貝塚からの出土品の一部です。今から約3千年前の縄文時代晩期に作られました。

弓はず(左)は、弓の両端につけて弦をかけるための道具です。鹿の角でできており、石器などで削って文様をつけています。

牙製勾玉(右)はイノシシの牙で作られたもので、穴をあけて、吊るして身に着けるアクセサリーにしました。弓はずは全長約4.5cm、牙製勾玉は約4cmほどです。縄文の人々の細工がいかに細かいかがわかります。

～31年3月24日、逢妻町に
刈谷市歴史博物館が開館します～

かりやの風景 190

市民盆おどり大会(総合運動公園)

刈谷の夏の風物詩として親しまれている市民盆おどり大会。今年もわんさか祭りの前夜祭として、8月17日(金)に開催されます。

現在は、総合運動公園で行われていますが、以前は、刈谷グラウンド(現在の刈谷球場)が会場として使われていた時代がありました。

市内23地区が集い、華やかな浴衣姿の輪が連なる光景は、涼しげで夏の情緒にあふれています。

盆おどりの曲目として、刈谷小唄、刈谷音頭をはじめ、かつなりくん音頭や新曲も予定されています。一般参加も自由ですので、皆さん奮ってご参加ください。露店も出ています。



▲現在の盆おどり大会の様子



▲昭和48年の盆おどり大会の様子